

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：  
研究種目：奨励研究  
研究期間：2019  
課題番号：19H00019  
研究課題名：戦前・戦後における文化運動に関する民間アーカイブズの活用促進方法の研究

研究代表者  
佐藤 美弥 (SATO, Yoshihiro)  
埼玉県立文書館・学芸員

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：420,000 円

研究成果の概要：本研究では、戦前から戦後にかけて展開された建築家による文化運動に関する民間に所在するアーカイブズを対象として、関連するアーカイブズを含む資料の調査・収集やインタビュー調査を通じて、文化運動の過程の解明を進展させるとともに、民間アーカイブズの保存及び活用促進の方法について地域の建築家との共同により検討し、保存環境の整備、資料目録の精緻化、当該アーカイブズに対する理解を促すための展示パネルの作成・展示などを実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、歴史学（日本近現代史）及び建築史学などの研究領域に関連する、戦前・戦後期における建築家による文化運動の過程の一端を明らかにした。また、近年社会状況の変化のなかで、散逸などの問題が浮上している、民間アーカイブズの保存・活用の方法について、地域の方々と共に検討を進め、アーカイブズへの理解を深めるとともに、資料保存を考慮しつつ、容易に、アーカイブズの概要や価値を視覚的に広報するための方法として、資料の画像で構成したパネルを製作し、展示を実施した。

研究分野：日本近現代史 博物館学

キーワード：アーカイブズ 文化財活用 戦後史

## 1. 研究の目的

本研究の目的は、これまでの研究のなかで重要性が明らかになった、1923（大正12）年の関東大震災直後に結成された建築家グループである創宇社建築会に参加した竹村新太郎に関するアーカイブズ（竹村新太郎関係資料）を対象に、戦前・戦後期における建築家による文化運動に関する調査を進めるとともに、近年社会状況の変化によって散逸などの問題が浮上している民間アーカイブズの保存・活用を促進する方法を検討・開発し、実践することである。

## 2. 研究成果

研究の目的を達成するため、本研究では、地域の建築家団体との連携・協議を踏まえて、(1) アーカイブズの調査・分析、(2) アーカイブズの活用を促進するための資料目録の精緻化、(3) アーカイブズに対する理解を深めるための方法の検討・開発・実践を実施した。

(1) については、これまで進めてきた戦前・戦後の建築家による文化運動についての調査をさらに深化させるため、竹村新太郎関係資料を補完する性格をもつ西山卯三記念・すまい・まちづくり文庫のほか、京都大学人文科学研究所や函館市中央図書館などでの資料調査・収集を実施した。また、戦前の運動に関わった建築家の子孫や、戦後の運動を知る当事者のインタビュー調査を実施した。これらの成果は、雑誌論文や学会発表等で発表した。

(2) については、2019（令和元）年5月から2020（令和2）年2月まで、4回にわたり、目録作成の作業を進めた。合わせて、データロガーを用いた温湿度の測定などを通じて、資料の保存環境について検討した。

(3) については、原資料を保護しながらアーカイブズについて広報する方法として、展示パネルを作成した。地域の建築家団体と協議しながら、アーカイブズの特徴をよく示す代表的

な資料の画像を構成し、合わせて資料群の成立ちや現在まで継承されてきた経緯を解説する内容とした。B2判で容易に持ち運べるものにし、学会発表・講演に合わせて展示を実施した。

### 3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- ① 佐藤 美弥、建築運動の軌跡をたどる—創宇社から新建まで—、建築とまちづくり、査読無、492号、2020、12-17

〔学会発表〕(計 2 件)

- ① 佐藤 美弥、創宇社建築会と建築運動の出発、新建築家技術者集団第32回全国大会 in 千葉記念講演(招待講演)、2020
- ② 佐藤 美弥、建築実践へ—山口文象と創宇社建築会の建築認識—、分離派100年研究会連続シンポジウム「分離派建築会誕生100年を考える」第7回「新しい都市と社会をめざして」、2019

### 4. 研究組織

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。